

地域学校協働活動事業訪問

本宮市訪問

訪問日：令和2年12月3日（木）9：00～10：30

場所：本宮市立本宮まゆみ小学校

内容：第6学年総合的な学習の時間「戦争体験講話学習」

大塚道子さん、五十嵐住男さんをボランティアとして迎え、総合的な学習の時間「戦争体験講話学習」の授業実践が行われました。

初めに、大塚さんによる本宮空襲の様子や戦時中の生活についての講話です。昭和20年当時、小学生だった大塚さんが目の当たりにした火の粉や黒煙の様子に子ども達は食い入るように耳を傾けていました。「爆弾が雨のように降ってくる様子は忘れることはできません」という言葉がとても印象的でした。

また、戦時中の衣・食・住について、当時のヘルメットや水筒、衣服等に触れながら貧しいながらも力強く生きていた当時の小学生の姿に思いをさせていました。



続いて五十嵐さんの「『戦争』を考える講話です。人はなぜ争うのか、戦後の復興と平和について、子どもたちに伝えていただきました。

また、アフガニスタンの平和活動に取り組む中、一年前に凶弾に倒れた中村哲医師を紹介していただきました。子どもたちは平和を維持することの難しさ、尊さを感じ取っていました。

【児童から】

今は昔と違ってとても平和な世の中だと実感しました。日本国憲法で定められた「国民主権」「戦争放棄」「基本的人権の尊重」の考え方を大切に、自分も大人になったら平和活動をしていきたいと思いました。

【ボランティアの方から】

今の子どもたちは戦争について聞く機会がなくなってきました。当時を経験したものとして、生きた話を伝えていかなくてはならないと思います。特に戦時中の普通の家庭の様子や、千人針や着物に縫い込んだ名札などに込められた当時の人々の思いを、大切に伝えていきたいと思っています。

【校長先生から】

この本宮まゆみ小学校の近くには、戦時中軍需工場（郡是製糸工場～本宮工機製作所）があり、その工場を中心とした大規模な空襲を受けています。だからこそ、地域の方々が当時の様子を伝えてくれる今回のような学習は欠かせません。しかしながら、戦争体験を語れる方々の高齢化が進み、今後はビデオ収録やフィールドワークなど、平和教育のあり方を模索していく必要があります。そのためにも、来年度から導入を予定しているコミュニティ・スクールを活かし、地域の持つ力を大いに活用していきたいと考えています。



訪問を通して

本宮市では、学校支援地域本部と体験活動・ボランティア活動支援センターを両輪として学校支援ボランティア事業の内容充実を図っています。この戦争体験講話学習も、もう10年にわたる活動となっています。地域で大切にしていることを、地域の方々の力で丁寧に子ども達に伝えていくことを継続的に実施しています。

次年度以降予定されているコミュニティ・スクールの導入により、一層学校と地域の連携が期待されます。